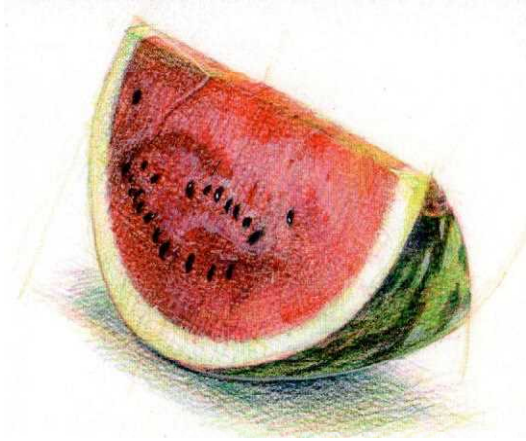


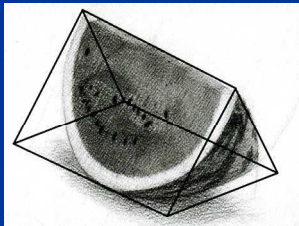
色鉛筆で

どこまで
表現できるかな

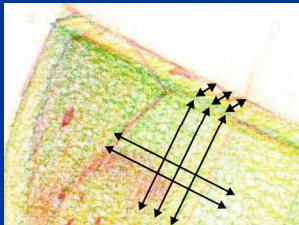
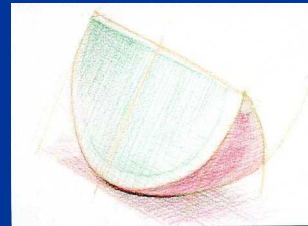
色や形を とことん 追求してみよう!



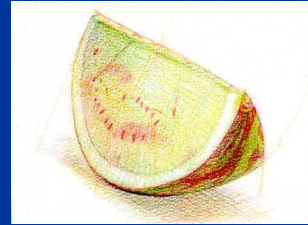
- 重色（色の塗り重ね）を工夫することで、限られた色数でも多彩な表現が可能です。
・右の「練習」で、色づくりを試してみましょう。
- 補色（色相環上で向かい合った色）同士を重色すると黒っぽい色ができます。
・このページの作例では、どれも「黒」は一切使用せず、重色により黒や陰影を表現しています。
- 仕上げに絵の具の「白」を活用することで、形が鮮明になります。
・作例の白絵の具の使用箇所をよく見て、参考にしてみましょう。



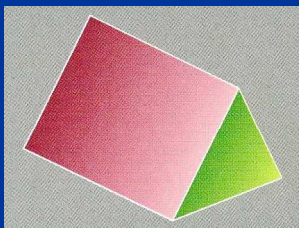
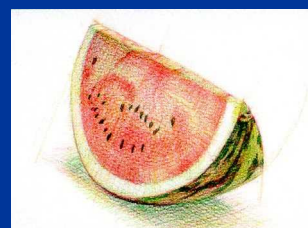
- ① 対象物を立方体、三角柱、円柱など基本的な立体に見立てると形がとりやすくなります。描きはじめは、軽いタッチで、各面の角度（傾き）に注目しながら形をとみましょう。



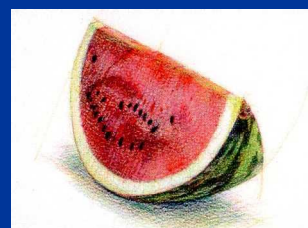
- ② 細部にとらわれず、全体的な立体感を出すように心がけながら描きます。塗りつぶすのではなく、①の角度を意識し、細かい線の集まりで陰影をつけていきましょう。



- ③ この作例では、反対の色に近い、緑と赤を塗り重ねることで陰影の感じを出しています。（色相環 参照）
その他にも「味」や「生命力などを想像しながら、様々な色を自由に重ねて自分らしい表現をしてみましょう。



- ④ はっきりした色合いになるまで「②」と「③」を繰り返します。
繰り返し色を重ねていくと、明るい部分も塗りつぶされてしまいます。色鉛筆の白は発色が弱いため、対象物の明るい部分は絵の具の白で描きます。



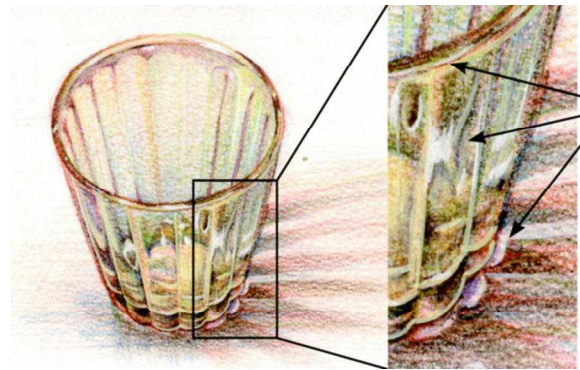
対象をよく観察し、重色を工夫して表しましょう。

< 練習 >

下の横長のわくの中を赤・黄・青の3色だけの色鉛筆で、重色を工夫しながら虹色に塗ってみましょう。



< 基本色12色による色相環 >



白絵の具による描画

～身近なものを色鉛筆でスケッチしてみましょう。～

1年 組 番 氏名

